

## Conversation Partner

もうひとつ大きな変化として、今学期から私には英会話のパートナーができました。英語を第二言語として学んでいるESLの生徒に対して大学が提供しているプログラムの一環のConversation Partner といって、留学生と現地の学生がペアになります。内容はとくに決まりはなく、私の場合は週に数回、学校や近くのお店などで会って、会話の練習に付き合ってもらったり、週末に遊びに出かけたりしています。

彼女は1歳年上のカリフォルニア出身の女の子で、今学期から、私が現在通っているPortland State Universityに編入してきたばかり。とても明るくよく話題も作ってくれますが、私の話すペースもとても大事にしてくれて、とことん会話に付き合ってくれています。彼女は日本語を勉強しているというわけでもないの、まったくのボランティア。まだ出会ってから日が浅いのですが、今の私にとっては、普段おしゃべりをする友達や、クラスメイトなどとは違った少し特別な存在です。

1対1で話をすることの大切さをとても気付かされます。大勢の会話の中にいると、聞き逃したり意味がわからなかったことを聞き返すのにためらってしまったり、ジョークが分からなくてもその場の雰囲気だけで楽しめればいいのかとやりすごしてしまうことがあります。1対1だとそんな遠慮はありません。彼女はとても海外の文化や国際交流に興味のあり、また自分の出身地の歴史などもよく知っているため日本についても良く質問をされるのですが、言語の問題を抜きにして、伝えられないことの多さに情けなく思うこともあります。インプットするだけでなく、どうアウトプットするのか。またアウトプットするものを普段からしっかり自分の中に持っていることも必要なのだとしみじみ痛感しています。せっかくできたパートナー。今は彼女から学ぶことがほとんどですが、残りの留学期間を通して私も彼女に日本のことを伝えられるようにならなくては。

こういったパートナー制度は聞きなれていませんでしたが、案外日本以外の国では普通に行われているのでしょうか。ドイツに留学している友達から聞いた話によると、ドイツにも外国人同士がペアになり、一緒に話をしたり勉強をしたりしてお互いの文化を交換するタンデムという制度が、文化としてごく当たり前に普及していて、留学生はみんなタンデムを見つけているそうです。制度といってもそんなに堅苦しいものではなくて、現地の学生が留学生に対して気軽に「よかったらタンデムにならない?」といった感じで始める、カジュアルなものようです。

アメリカの大学の図書館やカフェテリアなどでも、時々アメリカ人学生と留学生が言語を教えあっている光景を見かけます。



欧米という土地柄もあってか、たしかに留学生の数や言語を学ぶ人、学ぶことを必要とする人の数は日本と比べると多いかもしれません。それでも、文化としてこういった制度が根付いているというのは少し羨ましく思います。日本では中学から英語を勉強するから、私はもう10年近く英語を勉強している、という、アメリカ人の友人はとても驚きます。こちらの大学に来て、3~4年で日本語がとても流暢なアメリカ人にも何人も出会っているのこの差は何なのだろうかと。日本では、近々小学校からの英語必修化が実現するので、そうすると義務教育だけでも5年以上は誰もが英語を学ぶことになります。そうになったら・・・まだ先は見えませんが、日本の教育スタイルもこれからどんどん変わっていくのでしょうか。大学生になってから語学の面白さに気がついた身としては、とても興味深いです。

## これから

近頃、残り半年という現実に対し少し神経質になっていて、ちょっとしたことに焦りや不安を感じていました。そしてそんな気持ちはお構いなしに、毎日の課題や自分のやりたいことに追われ時間はどんどん過ぎていきます。限られている時間をどう過ごすのかは本当に自分次第です。せっかくの限られた期間、モチベーションを保って何事も楽しまないと!

(2010年2月17日)

早稲田の学生の留学エッセイは、下のサイトでお読みになれます。  
[www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm](http://www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm)



留学は、秋学期と春学期の2学期だけです。冬休みを挟んで、後半の学期がスタートしました。寮の移動・新しいパートナーとの出会い、などで、生活もフレッシュに再スタートです。

「勉強も遊びも要領をつかんだ」三浦さんですが、留学生活もあと半年となって、「限られた時間・期間」の有意義な使い方に気を配っています。そう「何事も楽しまないと!」三浦さん、がんばってくださいね!